

「生活科」に関する小学校教師の意識について

金子 博美, 奥井 智久*, 田矢 一夫

Research on the Attitudes of Primary School Teachers toward the new subject "Life Environmental Studies"

Hiromi Kaneko, Tomohisa Okui*, Kazuo Taya

はじめに

平成元年3月, 学校教育法施行規則の一部ならびに小学校学習指導要領が改訂告示された。そして, 平成4年度から完全実施される小学校新教育課程の中に, 具体的な活動や体験を通して児童が自立への基礎を養い, 生活者として必要な能力や態度を身につけることを目的として, 第1・2学年に「生活科」という教科が新設された。

この「生活科」という新しい教科は, 昭和40年代から20年に及ぶ長期の検討を経て生まれた教科であるが, 小学校では戦後40年にして初めての教科の新設である。そこで, その円滑な実施を促すため, 「生活科」の設置に携わった関係者などから解説書, 論文などが数多く出されている**。しかしながら, それでもなお教育現場では, 「生活科」についての期待と少なからぬ迷いや不安が存在していることが推測される。

平成4年度から完全実施される新教育課程への移行期にある現在, 小学校教師は「生活

科」に対してどのように考え, どのように取り組もうとしているのか, あるいは既に取り組んでいるかをとらえることは, 今後の「生活科」の実施とその成否に大きな手がかりを与えることになると考えられる。

このような問題意識の下に, 筆者らは本学の教育研究所が主催した「生活科に関するワークショップ」に参加した小学校教師を対象として, 「生活科」に対する意識調査を実施し, その結果について分析を行った。その結果について以下に報告する。

研究方法

本研究では, 平成3年8月28・29日の2日間, 本学教育研究所が主催した「生活科に関するワークショップ」に参加した小学校教師を対象に, 「生活科」に関する考え方, 姿勢, 内容, 方法, 教材など, 5項目について別に記載したようなアンケートを実施しその回答を求める方法を採用した。

回収し得た回答総数は205で, 集計不能な回答はきわめて少なかった。そして, これを年齢階層別ならびに「生活科」担当経験の有無別などに分類し, 集計を行った。

*宇都宮大学教育学部教授

**これらについてのいくつかは参考文献として文末にあげた。

研究結果

1. 対象者の属性

回答者の属性は、性別では性別無記入者4名を除き、男子13名(6.5%)、女子188名(93.5%)であり、年齢階層別では20歳代24名(11.7%)、30歳代115名(56.1%)、40歳代59名(28.8%)、50歳以上7名(3.4%)であった。

また、担当学年は表1のようにいずれの年齢階層とも低学年の担当者が多く、全部で150名(75.8%)に達した。

表1 担当学年 (): %

| | 低学年 | 中学年 | 高学年 | その他 | 計 |
|-------|-----------|----------|---------|---------|------------|
| 20歳代 | 17(70.8) | 5(20.8) | 2(8.3) | 0(0.0) | 24(100.0) |
| 30歳代 | 86(78.2) | 14(12.7) | 8(7.3) | 2(1.8) | 110(100.0) |
| 40歳代 | 43(75.4) | 7(12.3) | 4(7.0) | 3(5.3) | 57(100.0) |
| 50歳以上 | 4(57.1) | 0(0.0) | 1(14.3) | 2(28.6) | 7(100.0) |
| 合計 | 150(75.8) | 26(13.1) | 15(7.6) | 7(3.5) | 198(100.0) |

教師歴としては11~20年の者が多く、全部で125名(64.4%)を占めている。そして、勤務校の規模は13~24学級が132名(64.7%)であり、次いで25学級以上が57名(27.9%)である。また、低学年の学級数は5~10学級が115名(56.4%)、2~4学級が76名(37.3%)である。

勤務校で現在「生活科」を実施している者は全部で166名(83.0%)である。また、回答者自身で生活科を担当している、あるいはしたことがある者は全部で130名(64.4%)である。この「生活科」の担当の有無と各年齢階層のクロス集計は表2のようであるが、年齢階層間に統計的な有意差は認められない。

集計の結果であるが、回答者の年齢階層別に分類・集計したところ、いずれの質問項目

表2 生活科の担当 無効標本数3

| | している | していない | 計 |
|-------|-----------|----------|------------|
| 20歳代 | 12(50.0) | 12(50.0) | 24(100.0) |
| 30歳代 | 77(67.5) | 37(32.5) | 114(100.0) |
| 40歳代 | 38(66.7) | 19(33.3) | 57(100.0) |
| 50歳以上 | 3(42.9) | 4(57.1) | 7(100.0) |
| 合計 | 130(64.4) | 72(35.6) | 202(100.0) |

(): %

とも年齢階層間に統計的有意差はみられなかった。そこで、生活科の授業担当経験別に分類・集計を行ったところ、いくつかの質問項目に有意な差がみられた。したがって、本報告では生活科の担当経験の有無別の集計結果を中心に述べる。

2. 生活科に対する姿勢

「生活科」に対する姿勢については、6つの項目を挙げ、その印象について複数選択で回答を求めた。その結果、表3に示すように全体としては「楽しそう」という回答が最も多く107名(53.0%)、次いで「おもしろそう」97名(48.0%)という回答状況であった。しかし、その反面、「やりにくそう」という回答が96名(47.5%)、「難しそう」が94名(46.5%)もあった。これらの回答項目を生活科の担当経験の有無別に集計してみたところ、いずれの項目とも統計的に有意な差はみられなかった。

次に、6個の選択項目間の相関表を作成したところ、表4のような結果が得られた。即ち、「おもしろそう」と回答した者98名の中には、同時に「楽しそう」と回答した者が53名(54.1%)いるが、その反面「難しそう」43名(43.9%)、「やりにくそう」36名(36.7%)という回答も含まれている。そして、「楽しそう」と回答した者の中には、前

表 3

生活科に対する印象

無効標本数 3

| 担当経験 | おもしろそう | 他と同じ | やりやすそう | 楽しそう | 難しそう | やりにくそう | 計 |
|------|----------|--------|--------|-----------|----------|----------|------------|
| あり | 67(51.5) | 3(2.3) | 2(1.5) | 71(54.6) | 62(47.7) | 59(45.4) | 130(100.0) |
| なし | 30(41.7) | 1(1.4) | 0(0.0) | 36(50.0) | 32(44.4) | 37(51.4) | 72(100.0) |
| 合計 | 97(48.0) | 4(2.0) | 2(1.0) | 107(53.0) | 94(46.5) | 96(47.5) | 202(100.0) |

() : %

述の他に「難しそう」55名(50.9%)、「やりにくそう」36名(33.3%)が含まれている。また、「難しそう」という回答者の中には、前述の結果の他に「やりにくそう」という者が38名(40.0%)含まれている。

(90.0%)である。これらについては「生活科」の担当経験の有無の間で差はみられない。しかし、「内容によっては先生がきちんと教えたり、子供自身にやらせる」(表7と図1)という項目では、そう思うと答えている者は、全部で171名(85.1%)で、生活科担当経験の有無の間に統計的に有意な差がみられる。

表 4 生活科に対する印象項目間のクロス

単位：人 () : %

| | | | | | |
|-----------|----------|---------|---------|----------|----------|
| (1)おもしろそう | | | | | |
| (2)他と同じ | 3(3.1) | | | | |
| (3)やりやすそう | 2(2.0) | 0(0.0) | | | |
| (4)楽しそう | 53(54.1) | 1(20.0) | 1(50.0) | | |
| (5)難しそう | 43(43.9) | 0(0.0) | 0(0.0) | 55(50.9) | |
| (6)やりにくそう | 36(36.7) | 0(0.0) | 0(0.0) | 36(33.3) | 38(40.0) |
| | (1) | (2) | (3) | (4) | (5) |
| | n : 98 | n : 5 | n : 2 | n : 108 | n : 95 |
| | (100.0) | (100.0) | (100.0) | (100.0) | (100.0) |

表 5 丁寧に教える 無効標本数 5

| 担当経験 | そう思う | そう思わない | わからない | 計 |
|------|--------|-----------|--------|------------|
| あり | 1(0.8) | 127(98.4) | 1(0.8) | 129(100.0) |
| なし | 2(2.8) | 67(94.4) | 2(2.8) | 71(100.0) |
| 合計 | 3(1.5) | 194(97.0) | 3(1.5) | 200(100.0) |

() : %

3. 生活科の考え方

「生活科」の考え方については、学習活動に関する3項目を挙げて回答を求めた。その結果を表5～7と図1に示す。全体としては、「すべての教材を用意して丁寧に教えよう」(表5)とは考えない者が圧倒的に多く194名(97.0%)であり、「子供が自分で物を用意したり、作ったりして集団生活ができるようにする」(表6)と考える者が181名

表 6 集団生活ができる 無効標本数 4

| 担当経験 | そう思う | そう思わない | わからない | 計 |
|------|-----------|---------|--------|------------|
| あり | 118(90.8) | 9(6.9) | 3(2.3) | 130(100.0) |
| なし | 63(88.7) | 4(5.6) | 4(5.6) | 71(100.0) |
| 合計 | 181(90.0) | 13(6.5) | 7(3.5) | 201(100.0) |

() : %

図1 内容によって子供自身にやらせる

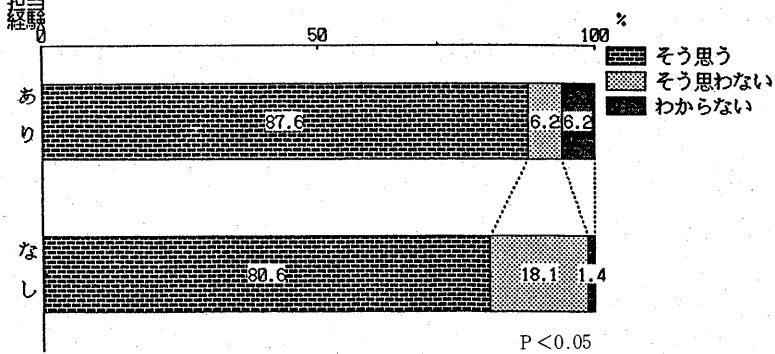


表7 内容によって子供自身でやらせる 無効標本数4

| 担当経験 | そう思う | そう思わない | わからない | 計 |
|------|------------|-----------|---------|------------|
| あり | 113 (87.6) | 8 (6.2) | 8 (6.2) | 129(100.0) |
| なし | 58 (80.6) | 13 (18.1) | 1 (1.4) | 72(100.0) |
| 合計 | 171(85.1) | 21(10.4) | 9(4.5) | 201(100.0) |

() : % p < 0.05

生活科の担当経験の有無により統計的に有意な差がみられ、担当経験がある者の方が無いと回答した者より「扱いやすい」とする回答の割合が高い。

「子供と社会との関わりを扱う内容」(表9)では、「普通」99名(49.3%),「扱いにくい」85名(42.3%)であり、「扱いやすい」という回答者は17名(8.5%)しかない。ま

4. 生活科の内容

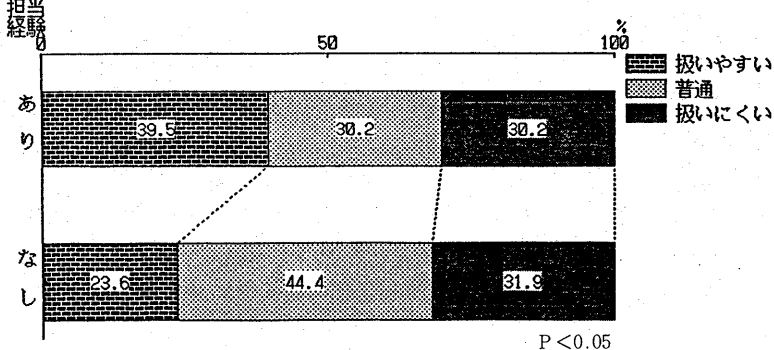
「生活科」の内容に対する考え方では、表8~10に示すように、「子供と自然との関わりを扱う内容」(表8と図2)について、「扱いやすい」68名(33.8%),「普通」71名(35.3%)および「扱いにくい」62名(30.8%)と回答が3分されている。しかし、

表8 子供と自然 無効標本数4

| 担当経験 | 扱いやすい | 普通 | 扱いにくい | 計 |
|------|-----------|-----------|-----------|------------|
| あり | 51 (39.5) | 39 (30.2) | 39 (30.2) | 129(100.0) |
| なし | 17 (23.6) | 32 (44.4) | 23 (31.9) | 72(100.0) |
| 合計 | 68 (33.8) | 71 (35.3) | 62 (30.8) | 201(100.0) |

() : % p < 0.05

図2 子供と自然とのかかわりを扱う内容



P < 0.05

表9 子供と社会 無効標本数 4

| 担当経験 | 扱いやすい | 普通 | 扱いにくい | 計 |
|------|-----------|-----------|-----------|------------|
| あり | 13(10.1) | 67(51.9) | 49(38.0) | 129(100.0) |
| なし | 4(5.6) | 32(44.4) | 36(50.0) | 72(100.0) |
| 合計 | 17(8.5) | 99(49.3) | 85(42.3) | 201(100.0) |

() : %

表10 子供の役割 無効標本数 3

| 担当経験 | 扱いやすい | 普通 | 扱いにくい | 計 |
|------|-----------|------------|-----------|------------|
| あり | 36(27.7) | 64(49.2) | 30(23.1) | 130(100.0) |
| なし | 24(33.3) | 36(50.0) | 12(16.7) | 72(100.0) |
| 合計 | 60(29.7) | 100(49.5) | 42(20.8) | 202(100.0) |

() : %

た「子供自身の学校や家庭での役割」(表10)を扱う内容については、「普通」100名(49.5%)、「扱いやすい」60名(29.7%)、「扱いにくい」42名(20.8%)であって、これらは統計的に有意な差はみられない。

5. 生活科の指導法

生活科の指導法については、子供の活動に関する考え方を「自然や社会を観察する」、「動・植物を育てる」、「物を製作する」、「人と話をする」、「言葉で表す」、「文章に表す」、「絵で表す」、「動作で表す」および「劇で表す」など9項目を挙げ、「扱いやすい」、「普通」および「扱いにくい」の3段階で回答を求めた。その結果を表11～19および図3～4に示す。

「物を製作する」(表13と図3)と「絵で表す」(表17)を除いた他の7項目はすべて「普通」と回答した割合が一番高く、44.1%

表11 自然や社会の観察 無効標本数 6

| 担当経験 | 扱いやすい | 普通 | 扱いにくい | 計 |
|------|-----------|-----------|-----------|------------|
| あり | 34(26.4) | 63(48.8) | 32(24.8) | 129(100.0) |
| なし | 7(10.0) | 34(48.6) | 29(41.4) | 70(100.0) |
| 合計 | 41(20.6) | 97(48.7) | 61(30.7) | 199(100.0) |

() : % p < 0.01

表12 動・植物を育てる 無効標本数 3

| 担当経験 | 扱いやすい | 普通 | 扱いにくい | 計 |
|------|-----------|-----------|-----------|------------|
| あり | 35(26.9) | 59(45.4) | 36(27.7) | 130(100.0) |
| なし | 18(25.0) | 30(41.7) | 24(33.3) | 72(100.0) |
| 合計 | 53(26.2) | 59(44.1) | 60(29.7) | 202(100.0) |

() : %

表13 物を製作する 無効標本数 3

| 担当経験 | 扱いやすい | 普通 | 扱いにくい | 計 |
|------|------------|-----------|---------|------------|
| あり | 78(60.0) | 48(36.9) | 4(3.1) | 130(100.0) |
| なし | 26(36.1) | 44(61.1) | 2(2.8) | 72(100.0) |
| 合計 | 104(51.5) | 92(45.5) | 6(3.0) | 202(100.0) |

() : % p < 0.01

～64.2%を占めている。「物を製作する」については「扱いやすい」が多く104名(51.5%)である。「絵で表す」も、「扱いやすい」が一番多く139名(69.2%)である。

生活科の担当経験の有無別で有意な差があった項目は、「自然や社会の様子を観察する」(表11と図4)と「物を製作する」の2項目で、両者とも担当経験がある者の方が担当経験の無い者より「扱いやすい」という回答の

図3 物を製作する

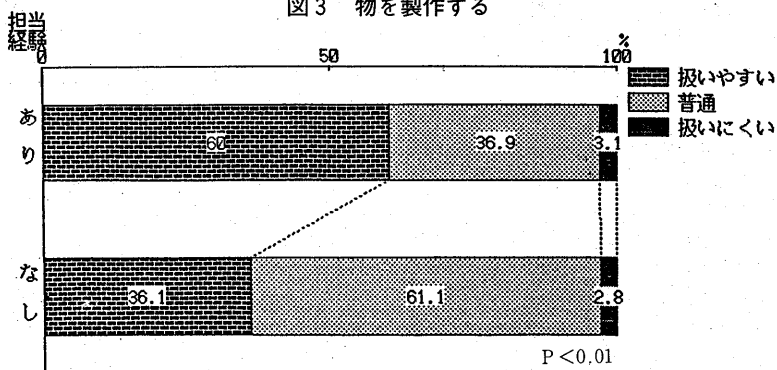


図4 自然や社会の様子を観察する

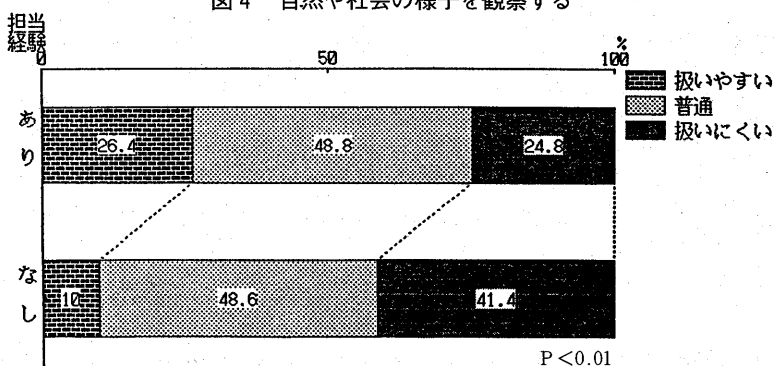


表14 人と話をする 無効標本数 3

| 担当経験 | 扱いやすい | 普通 | 扱いにくい | 計 |
|------|-----------|------------|-----------|------------|
| あり | 15 (11.5) | 71 (54.6) | 44 (33.8) | 130(100.0) |
| なし | 5 (6.9) | 38 (52.8) | 29 (40.3) | 72(100.0) |
| 合計 | 20(9.9) | 109(54.0) | 73(36.1) | 202(100.0) |

() : %

表15 言葉で表す 無効標本数 4

| 担当経験 | 扱いやすい | 普通 | 扱いにくい | 計 |
|------|-----------|------------|----------|------------|
| あり | 40 (30.8) | 79 (60.8) | 11(8.5) | 130(100.0) |
| なし | 14 (19.7) | 50 (70.4) | 7(9.9) | 71(100.0) |
| 合計 | 54(26.9) | 129(64.2) | 18(9.0) | 201(100.0) |

() : %

割合が高くなっている。

6. 授業運営への協力

生活科の授業における教師相互、地域住民などとの協力に対する意識について3項目の質問をしたところ、表20～22に示すような結果が得られた。

「低学年の先生方が一緒に計画を立てたり、活動を行ったりして協力しあう」(表20)、「家庭や地域の方々と連絡を取り合って協力してもらおう」(表21)および「特別な技能を持った人にきてもらって一緒に活動する」(表22)の3項目いずれも「そう思う」と回答したものが多く、担当経験の有無の間で有

表16 文章に表す 無効標本数 3

| 担当経験 | 扱いやすい | 普通 | 扱いにくい | 計 |
|------|-----------|------------|-----------|------------|
| あり | 41(31.5) | 69(53.1) | 20(15.4) | 130(100.0) |
| なし | 13(18.1) | 45(62.5) | 14(19.4) | 72(100.0) |
| 合計 | 54(26.7) | 114(56.4) | 34(16.8) | 202(100.0) |

() : %

表17 絵で表す 無効標本数 4

| 担当経験 | 扱いやすい | 普通 | 扱いにくい | 計 |
|------|------------|-----------|---------|------------|
| あり | 97(74.6) | 32(24.6) | 1(0.8) | 130(100.0) |
| なし | 42(59.2) | 28(39.4) | 1(1.4) | 71(100.0) |
| 合計 | 139(69.2) | 60(29.9) | 2(1.0) | 201(100.0) |

() : %

表18 動作で表す 無効標本数 4

| 担当経験 | 扱いやすい | 普通 | 扱いにくい | 計 |
|------|-----------|------------|-----------|------------|
| あり | 39(30.0) | 76(58.5) | 15(11.5) | 130(100.0) |
| なし | 17(23.9) | 45(63.4) | 9(12.7) | 71(100.0) |
| 合計 | 56(27.9) | 121(60.2) | 24(11.9) | 201(100.0) |

() : %

意な差異はみられなかった。

7. 生活科の授業展開

平成4年度から生活科の授業が全面的に実施されるが、それに対する心構えのうち、「授業展開」、「評価の仕方」、「準備の時間」、「活動する場所・施設」および「教師自身の経験」の5項目について質問をした。この結果を表23～27に示す。

表19 劇で表す 無効標本数 3

| 担当経験 | 扱いやすい | 普通 | 扱いにくい | 計 |
|------|-----------|-----------|-----------|------------|
| あり | 17(13.1) | 59(45.4) | 54(41.5) | 130(100.0) |
| なし | 6(8.3) | 36(50.0) | 30(41.7) | 72(100.0) |
| 合計 | 23(11.4) | 95(47.0) | 84(41.6) | 202(100.0) |

() : %

表20 先生同士の協力 無効標本数 3

| 担当経験 | そう思う | そう思わない | わからない | 計 |
|------|------------|----------|---------|------------|
| あり | 119(91.5) | 11(8.5) | 0(0.0) | 130(100.0) |
| なし | 62(86.1) | 8(11.1) | 2(2.8) | 72(100.0) |
| 合計 | 181(89.6) | 19(9.4) | 2(1.0) | 202(100.0) |

() : %

表21 家庭や地域の協力 無効標本数 3

| 担当経験 | そう思う | そう思わない | わからない | 計 |
|------|------------|---------|---------|------------|
| あり | 127(97.7) | 0(0.0) | 3(2.3) | 130(100.0) |
| なし | 67(93.1) | 1(1.4) | 4(5.6) | 72(100.0) |
| 合計 | 194(96.0) | 1(0.5) | 7(3.5) | 202(100.0) |

() : %

各項目とも担当経験の有無の間で統計的に有意な差はみられず、いずれの項目とも「そう思う」と回答したものが圧倒的(70.1%～92.5%)に多い。

考察とまとめ

本調査は、8月の夏季休暇中に開催された「生活科に関するワークショップ」会場で実施されたものである。それだけにアンケート

表22 技能を持った人と一緒に 無効標本数 6

| 担当経験 | そう思う | そう思わない | わからない | 計 |
|------|------------|-----------|-----------|------------|
| あり | 90(70.3) | 19(14.8) | 19(14.8) | 128(100.0) |
| なし | 45(63.4) | 11(15.5) | 15(21.1) | 71(100.0) |
| 合計 | 135(67.8) | 30(15.1) | 34(17.1) | 199(100.0) |

() : %

表23 授業に不安 無効標本数 5

| 担当経験 | そう思う | そう思わない | わからない | 計 |
|------|------------|-----------|----------|------------|
| あり | 102(79.1) | 18(14.0) | 9(7.0) | 129(100.0) |
| なし | 62(87.3) | 6(8.5) | 3(4.2) | 71(100.0) |
| 合計 | 164(82.0) | 24(12.0) | 12(6.0) | 200(100.0) |

() : %

表24 評価の仕方がわからない 無効標本数 6

| 担当経験 | そう思う | そう思わない | わからない | 計 |
|------|------------|----------|---------|------------|
| あり | 110(85.3) | 12(9.3) | 7(5.4) | 129(100.0) |
| なし | 63(90.0) | 5(7.1) | 2(2.9) | 70(100.0) |
| 合計 | 173(86.9) | 17(8.5) | 9(4.5) | 199(100.0) |

() : %

表25 準備時間が足りない 無効標本数 4

| 担当経験 | そう思う | そう思わない | わからない | 計 |
|------|------------|---------|---------|------------|
| あり | 118(90.8) | 7(5.4) | 5(3.8) | 130(100.0) |
| なし | 68(95.8) | 1(1.4) | 2(2.8) | 71(100.0) |
| 合計 | 186(92.5) | 8(4.0) | 7(3.5) | 201(100.0) |

() : %

表26 場所・施設が足りない 無効標本数 4

| 担当経験 | そう思う | そう思わない | わからない | 計 |
|------|------------|-----------|---------|------------|
| あり | 84(64.6) | 40(30.8) | 6(4.6) | 130(100.0) |
| なし | 57(80.3) | 11(15.5) | 3(4.2) | 71(100.0) |
| 合計 | 141(70.1) | 51(25.4) | 9(4.5) | 201(100.0) |

() : %

表27 教員の経験不足 無効標本数 5

| 担当経験 | そう思う | そう思わない | わからない | 計 |
|------|------------|----------|---------|------------|
| あり | 115(89.1) | 7(5.4) | 7(5.4) | 129(100.0) |
| なし | 64(90.1) | 5(7.0) | 2(2.8) | 71(100.0) |
| 合計 | 179(89.5) | 12(6.0) | 9(4.5) | 200(100.0) |

() : %

に回答を寄せた小学校教師は、「生活科」に対し何らかの熱意や意欲、興味・関心を持って自発的に参加した積極的な参加者であったと考えられる。実際に、アンケートの回答で集計不能なものはほとんどなく、「生活科」に対する忌憚りの無い姿勢や考えが反映されていたと推察される。

●期待と不安

調査結果から平成4年度の「生活科」の完全実施を控えて、現時点では「生活科」を担当する小学校教師間にかなりの困惑した状況があると考えられる。これは「生活科」に対する姿勢についての回答において、「おもしろそう」「楽しそう」と回答すると同時に、「難しそう」「やりにくそう」と回答している者がかなり多くみられることにも表れている。

授業展開について教師相互や地域住民、特別な技能を持った人などの協力を強く望む多くの回答は、教師の不安や迷い、自信の無さを示していると考えられる。

さらに、平成4年度の完全実施に向けて教師の授業展開、評価法、準備時間、場所・施設、経験などの不十分さを指摘した回答も多い。

●経験による不安の解消

前記の現状は新教育課程が完全実施され、教師の生活科担当の経験が重なるとともにいづれ払拭されていくものと思われる。

というのは、「生活科」を担当した経験の有無によって「生活科」の必要性・重要性に差のある事項も回答の中に幾つか見つけ出すことができるからである。

例えば、「生活科」の学習活動についての考え方のうち、「内容によって先生がきちんと教えたり、あるいは子供自身でやらせたりする」(表7と図1)という問いに対し、担当経験のある教師の方が担当経験の無い教師より「そう思う」という回答の割合が高くなっている。また、「そう思わない」という回答では、経験しない教師の方が高い割合である。これらは、「生活科」を実際に担当した経験によって、子供たちにある程度基礎技術を共通に持たせる必要があることを感じたからであると推察される。

次に、「生活科」の内容のうち、「子供と自然とのかかわりを扱う内容」(表8と図2)、「生活科」の方法のうち、「自然や社会の様子を観察する活動」(表9)と「物を製作する活動」(表13と図3)のそれぞれについて、担当経験のある教師の方が、担当経験の無い教師より「扱いやすい」とかなり大きな差をもって回答している。これは、動・植物の飼育・栽培やおもちゃなどの製作、校外の観察などの活動を、実際に実施してみると、子供たちの自発性や主体性が生かされ、心配する

ほど教師の負担にならず、楽しい活動になり得ることを示唆している。

●まとめ

以上のような回答状況から、新教科「生活科」の学習指導については、小学校教師間に若干の迷いもあるが、「生活科」は小学校教育に必要なものであり、実際に試行してみると楽しい面もあるという意識が「生活科」を実施した教師を中心に教師間に生まれつつあることが推察できる。

最後に本調査のデータ処理にあたり指導と協力を戴いた本学教育学部助教授 金子 俊氏に感謝の意を表します。

参考文献

- 1) 文部省：小学校指導書生活編，教育出版（1991）
- 2) 益地勝志：絵で見る生活科，初教出版（1989）
- 3) 中野重人：生活科の授業づくりQ & A，明治図書（1991）
- 4) 牧田章：地域に根ざそう生活科，初教出版（1989）
- 5) 益地勝志：「生活科」単元づくりの工夫，大日本図書（1990）
- 6) 益地勝志，山の口小学校：小学校低学年授業の新構想（生活科への移行をめざして），初教出版（1990）
- 7) 中野重人，日台利夫，土屋暢：すぐ指導に使える単元付き生活科新学習指導要領の解説，初教出版（1989）
- 8) 蛸谷米司，益地勝志：生活科の理論と実践，初教出版（1989）
- 9) 中野重人：生活科教育の理論と方法，東洋館出版（1991）
- 10) 武藤隆：生活科の心理学，初教出版（1990）
- 11) 奥井智久他：生活科の新展開，教育開発研究所（1989）
- 12) 生活科授業研究（隔月刊）：明治図書（1990.11月創刊）

生活科に関するアンケート

この調査は、先生方の“生活科”に対するお考えをお尋ねするものです。調査結果は全体として処理し、個人のデータを示すことはありませんのでお気軽にお答えください。

* あなた自身にあてはまるものの記号に○をつけて下さい。

性別 ア. 男性 イ. 女性
年齢 ア. 20才代 イ. 30才代 ウ. 40才代 エ. 50才以上
担当学年 ア. 低学年 イ. 中学年 ウ. 高学年 エ. その他 ()
教師歴 ア. 5年未満 イ. 5～10年 ウ. 11～20年 エ. 21年以上

* あなたの勤務している学校の全学級数について、あてはまるものの記号に○をつけて下さい。

ア. 6学級以下 イ. 7～12学級 ウ. 13～24学級 エ. 25学級以上

また、低学年（1・2年生の合計）の全学級数について、あてはまるものの記号に○をつけて下さい。

ア. 1学級（複式を含む） イ. 2～4学級 ウ. 5～10学級 エ. 11学級以上

* 現在あなたの学校では“生活科”を実施していますか。あてはまるものの記号に○をつけて下さい。

ア. 実施している イ. 実施していない

* あなたは“生活科”を担当していますか。（担当したことがありますか。）あてはまるものの記号に○をつけて下さい。

ア. はい イ. いいえ

1) あなたは“生活科”についてどのような印象をお持ちですか。あてはまるものの記号に○をつけて下さい。（○は何個でもよい）

ア. おもしろそう イ. 他の教科と同じ ウ. やりやすそう
エ. 楽しそう オ. 難しそう カ. やりにくそう

2) “生活科”の学習活動についてどのようにお考えですか。あてはまるものの記号に○をつけて下さい。

(1) 先生がすべての教材を用意して子供に丁寧に教えるようにする

ア. そう思う イ. そう思わない ウ. わからない

(2) 子供ができるだけ自分で物を用意し、作ったり工夫したりして遊んだりしながら、友達と仲良く集団生活ができるようにする

ア. そう思う イ. そう思わない ウ. わからない

(3) 内容によって先生がきちんと教えたり、あるいは子供自身でやらせたりする

ア. そう思う イ. そう思わない ウ. わからない

3) “生活科”には次のような内容があります。それぞれについて、あなたはどのようにお考えですか。あてはまるものの記号に○をつけて下さい。

(1) 子供と自然とのかかわりを扱う内容

ア. 扱いやすい イ. 普通 ウ. 扱いにくい

(2) 子供と社会とのかかわりを扱う内容

ア. 扱いやすい イ. 普通 ウ. 扱いにくい

(3) 子供自身の学校や家庭での役割を扱う内容

ア. 扱いやすい イ. 普通 ウ. 扱いにくい

4) “生活科”の学習においては、子供の活動を大変大事にしています。次の活動についてどのようにお考えですか。あてはまるものの記号に○をつけて下さい。

- (1) 自然や社会の様子を観察する
ア. 扱いやすい イ. 普通 ウ. 扱いにくい
- (2) 動・植物を育てる
ア. 扱いやすい イ. 普通 ウ. 扱いにくい
- (3) 物を製作する
ア. 扱いやすい イ. 普通 ウ. 扱いにくい
- (4) いろいろな人と話をする
ア. 扱いやすい イ. 普通 ウ. 扱いにくい
- (5) 言葉で表す
ア. 扱いやすい イ. 普通 ウ. 扱いにくい
- (6) 文章に表す
ア. 扱いやすい イ. 普通 ウ. 扱いにくい
- (7) 絵で表す
ア. 扱いやすい イ. 普通 ウ. 扱いにくい
- (8) 動作で表す
ア. 扱いやすい イ. 普通 ウ. 扱いにくい
- (9) 劇で表す
ア. 扱いやすい イ. 普通 ウ. 扱いにくい

5) “生活科”では先生どうしの協力や地域の協力（地域のお母さん方などの協力）などが大事だと思われます。あなたはこれについて、どのようにお考えですか。あてはまるものの記号に○をつけて下さい。

- (1) 低学年の先生方が一緒に計画を立てたり、活動を行ったりして協力しあう
ア. そう思う イ. そう思わない ウ. わからない
- (2) 家庭や地域の方々と連絡を取り合って協力してもらう
ア. そう思う イ. そう思わない ウ. わからない
- (3) 特別な技能を持った人にきてもらって一緒に活動する
ア. そう思う イ. そう思わない ウ. わからない

6) “生活科”の全面実施に向けてお尋ねします。あてはまるものの記号に○をつけて下さい。

- (1) 生活科の授業展開について不安がある
ア. そう思う イ. そう思わない ウ. わからない
- (2) 評価の仕方がわからない
ア. そう思う イ. そう思わない ウ. わからない
- (3) 教材を準備する時間が足りない
ア. そう思う イ. そう思わない ウ. わからない
- (4) 地域の中に活動する場所や施設が少ない
ア. そう思う イ. そう思わない ウ. わからない
- (5) 教師自身の活動経験が不足している
ア. そう思う イ. そう思わない ウ. わからない

* 生活科の実施に向けてご意見などがございましたら、ご自由にお書き下さい。

ご協力どうもありがとうございました。

文教大学 理科教育研究室